

中学校音楽科採点基準

2枚のうち1

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

| 問題番号 | 正 答 (例) | 採 点 上 の 注 意 | 配 点 | | | | | | | | |
|-------|---|--|------|-------|--|-------|--|-------|---|----------------------------|----|
| 1 | ※ 別紙 (計1枚) | | 10 | | | | | | | | |
| | (1) ※ 別紙 (計1枚) | | 各5×4 | | | | | | | | |
| | (2) ※ 別紙 (計1枚) | 問いを正しくとらえていれば、内容は異なっていてよい。 | 40 | | | | | | | | |
| 70 | | | | | | | | | | | |
| 2 | 題材名 (アルト・リコーダーの特徴をとらえ、基礎的な奏法を身に付けて演奏しよう) | | | | | | | | | | |
| 2 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>時間</th> <th>学習活動</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1時間目</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○ アルト・リコーダーの音色、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ、アルト・リコーダーの音色や奏法に関心をもって「聖者の行進」の演奏に取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> ・リコーダー曲を聴き、リコーダーの音色、旋律について気付いたことをワークシートに書き、話し合い発表する。 ・教師の説明や演奏を聴くなどして、アルト・リコーダーの特徴や、奏法について気付かせる。 ・姿勢や構え方、息づかい、運指など、アルト・リコーダーの基礎的な奏法を知り、楽譜を見て「聖者の行進」を演奏する。 </td> </tr> <tr> <td>第2時間目</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○ アルト・リコーダーの基礎的な奏法を身に付け、アルト・リコーダーの音色や奏法に関心をもって「聖者の行進」を演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> ・範奏や視聴覚教材によって、実際の音色を聴き、スタッカート奏法やポルタート奏法などの奏法の特徴を感じ取る。 ・スタッカート奏法やポルタート奏法などの奏法を試し、表情の違いについて気付いたことをワークシートに書く。 ・ワークシートに書いた内容を基にグループで話し合い、アルト・リコーダーの特徴や「聖者の行進」の曲想に基づいて、どのような奏法で演奏したらよいか考える。 ・考えたことを楽譜に書き込み、姿勢や構え方、運指や息づかいなどに気を付けて、グループごとに2つのパートに分かれて練習する。 </td> </tr> <tr> <td>第3時間目</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○ アルト・リコーダーの基礎的な奏法を身に付けて、アーティキュレーションを工夫して演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> ・前時までに学習してきたことを生かし、どのように演奏するかについての思いや意図を再確認する。 ・各グループで2つのパートに分かれて「聖者の行進」を練習する。 ・奏法の違いによる表情の違いに注意しながら、各グループの演奏を聴き合い、そのよさなどを共有する。 </td> </tr> </tbody> </table> | 時間 | 学習活動 | 第1時間目 | <ul style="list-style-type: none"> ○ アルト・リコーダーの音色、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ、アルト・リコーダーの音色や奏法に関心をもって「聖者の行進」の演奏に取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> ・リコーダー曲を聴き、リコーダーの音色、旋律について気付いたことをワークシートに書き、話し合い発表する。 ・教師の説明や演奏を聴くなどして、アルト・リコーダーの特徴や、奏法について気付かせる。 ・姿勢や構え方、息づかい、運指など、アルト・リコーダーの基礎的な奏法を知り、楽譜を見て「聖者の行進」を演奏する。 | 第2時間目 | <ul style="list-style-type: none"> ○ アルト・リコーダーの基礎的な奏法を身に付け、アルト・リコーダーの音色や奏法に関心をもって「聖者の行進」を演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> ・範奏や視聴覚教材によって、実際の音色を聴き、スタッカート奏法やポルタート奏法などの奏法の特徴を感じ取る。 ・スタッカート奏法やポルタート奏法などの奏法を試し、表情の違いについて気付いたことをワークシートに書く。 ・ワークシートに書いた内容を基にグループで話し合い、アルト・リコーダーの特徴や「聖者の行進」の曲想に基づいて、どのような奏法で演奏したらよいか考える。 ・考えたことを楽譜に書き込み、姿勢や構え方、運指や息づかいなどに気を付けて、グループごとに2つのパートに分かれて練習する。 | 第3時間目 | <ul style="list-style-type: none"> ○ アルト・リコーダーの基礎的な奏法を身に付けて、アーティキュレーションを工夫して演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> ・前時までに学習してきたことを生かし、どのように演奏するかについての思いや意図を再確認する。 ・各グループで2つのパートに分かれて「聖者の行進」を練習する。 ・奏法の違いによる表情の違いに注意しながら、各グループの演奏を聴き合い、そのよさなどを共有する。 | 問いを正しくとらえていれば、内容は異なっていてよい。 | 30 |
| | 時間 | 学習活動 | | | | | | | | | |
| | 第1時間目 | <ul style="list-style-type: none"> ○ アルト・リコーダーの音色、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ、アルト・リコーダーの音色や奏法に関心をもって「聖者の行進」の演奏に取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> ・リコーダー曲を聴き、リコーダーの音色、旋律について気付いたことをワークシートに書き、話し合い発表する。 ・教師の説明や演奏を聴くなどして、アルト・リコーダーの特徴や、奏法について気付かせる。 ・姿勢や構え方、息づかい、運指など、アルト・リコーダーの基礎的な奏法を知り、楽譜を見て「聖者の行進」を演奏する。 | | | | | | | | | |
| 第2時間目 | <ul style="list-style-type: none"> ○ アルト・リコーダーの基礎的な奏法を身に付け、アルト・リコーダーの音色や奏法に関心をもって「聖者の行進」を演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> ・範奏や視聴覚教材によって、実際の音色を聴き、スタッカート奏法やポルタート奏法などの奏法の特徴を感じ取る。 ・スタッカート奏法やポルタート奏法などの奏法を試し、表情の違いについて気付いたことをワークシートに書く。 ・ワークシートに書いた内容を基にグループで話し合い、アルト・リコーダーの特徴や「聖者の行進」の曲想に基づいて、どのような奏法で演奏したらよいか考える。 ・考えたことを楽譜に書き込み、姿勢や構え方、運指や息づかいなどに気を付けて、グループごとに2つのパートに分かれて練習する。 | | | | | | | | | | |
| 第3時間目 | <ul style="list-style-type: none"> ○ アルト・リコーダーの基礎的な奏法を身に付けて、アーティキュレーションを工夫して演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> ・前時までに学習してきたことを生かし、どのように演奏するかについての思いや意図を再確認する。 ・各グループで2つのパートに分かれて「聖者の行進」を練習する。 ・奏法の違いによる表情の違いに注意しながら、各グループの演奏を聴き合い、そのよさなどを共有する。 | | | | | | | | | | |

中学校音楽科採点基準

2枚のうち2

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

| 問題番号 | 正 答 (例) | 採 点 上 の 注 意 | 配 点 |
|------|---|---------------------------|------|
| 3 | 1 安宅 | | 4 |
| | 2 (1) 歌舞伎舞台の下手の御簾の中で演奏される音楽。 (2) 母音を引き伸ばして歌う時のその音。 | 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。 | 各5×2 |
| | 3 (a) サ (b) エ (c) オ (d) コ | | 各4×4 |
| | 4 楽器等でいくつかの音を出しながら、音と音とを連ねて断片的な旋律をつくり、それを基にして、反復したりリズムを変えたり対照的な旋律を続けたりして、試行錯誤しながら音楽をつくっていく学習活動。 | 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。 | 10 |
| 5 | 1 (a) グレゴリオ聖歌 (b) ガムラン (c) 管絃 (d) 多声 | 管絃 もよい。 | 各3×4 |
| | 2 物語の内容などと一体となって、声や楽器の音色、速度、強弱の変化などが効果的に表現されることに気付かせるよう、視聴させたり調べさせたりする指導。 | 問いを正しくとらえていれば、内容は異なってもよい。 | 10 |
| 6 | 1 (ア) 限られた和声の中で、パターン化された音型やリズム型を反復しつつ構成する音楽。 (イ) モンゴルなどの北アジアで歌われる、同時に二つの音を発する歌唱法。 (ウ) ギターの奏法名。弦をはじいた後、次の弦に停止する奏法。 (エ) 決然と。きっぱりと。 | 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。 | 各4×4 |
| | 2 (ア) 楽 曲 名 歌曲集「冬の旅」から「菩提樹」 作 曲 者 名 シューベルト (イ) 楽 曲 名 ピアノソナタ第8番ハ短調「悲愴」 作 曲 者 名 ベートーヴェン | 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。 | 各3×4 |
| 7 | 声を出す場合も、楽器を演奏する場合も、音楽の背景となった生活や伝統的な音楽の世界がそれに適した姿勢や身体の使い方に表れているため。 | 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。 | 10 |

1

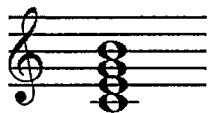
1

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

2

(1)

(ア)



(イ)



(ウ)



(エ)



(2)

(ソプラノ・リコーダー)

(アルト・リコーダー1)

(アルト・リコーダー2)

著作権保護の観点により、掲載いたしません。